



「茂小っ子」通信

R 6.11.20

茂原小学校

【和来】 <すべての子供たちと共に！>



<「鼓笛」の今後について> (お知らせ)



「鼓笛」関連のことは、これまでもその活動や状況などをお知らせしてきました。その中で記しましたが、教育課程の見直し（学習内容や練習時間の確保）や吹奏楽部（陸上以外の部活動含む）の廃部、令和6年度以降の茂原七夕パレード中止、今年度の運動会に向けた練習状況等も踏まえながら、令和7年度以降の鼓笛について検討を重ねてきました。

結論としましては、鼓笛の歴史や伝統、その教育的意義・効果は大であり、茂小っ子を育むうえでも貢献してきたことは確かですが、前述のとおり、今後の活動継続については、たいへん厳しい状況にあるというのが現状です。そこで、12月13日（金）に予定しています、「茂小っ子」集会において**鼓笛に終止符**を打つこととしました。

学校では、「不易流行」に触れながら教育を語ることが多々あります。「不易」は、時代が流れ移ろいでいこうとも、本質的なものは変わることがなく大切にすべきものがあるということ。「流行」は、時代につれて事物は変化し、それに合致させていかなければならないことがあるということ。これは、決してどちらか一方で、ということではなく、「不易」の中に「流行」を取り入れることが重要であるということになります。このことから、時代にあった鼓笛の形を模索し、継続していきたいとの思いは、当然のことながら学校職員にもあります。しかしながら「どこかのタイミングでは」ということで、今回このような決断を下すことにしました。

これからも、「不易流行」に照らし合わせた教育を創造・構築しながら、学校目標の「夢に向かって 心豊かにたくましく生きる『茂小っ子』の育成」を目指し、職員一丸となって取り組んでまいります。なにとぞ、ご理解いただき、今後ともご支援願います。

< 教育実習生の受け入れ > (2年生 算数科の精錬授業にて)



教育実習は、学校現場において教育実践を通じ、学生自らが教職への適性や進路を考える貴重な機会であり、教員免許状を取得するため大学において教育実習の科目を修得することが必要となっています。

実際には、学校や教員の仕事を全般的に体験して、学ぶ機会となります。また、短期間とはいえ、児童の大切な生命を預かるとともに、人格形成にも関わってきます。そのため、しっかりとした人権意識をもつこと、備えることが大切です。子供たちにとっては、近い年齢で接しやすさもあるためか、授業へ取り組む姿勢がより熱心であるように感じられます。積極的にコミュニケーションをとったり、意欲的に発表したりする姿が見られます。茂原中の2年生も、職場体験ということで来校しますので、豊かな人間関係づくりに向けたよい機会となります。「一期一会」を大切にしたいものです。

(文責：校長)